

医療的ケア児 日常知って

浜松の支援機関、冊子作成

人工呼吸器や吸引などの医療的ケアを必要とする子どもへの理解を広めようと、浜松市発達医療総合福祉センター(同市浜北区)が、医療的ケア児の家族の生活を伝える冊子「毎日の暮らしのお便り」を作成した。医療技術の進歩などを背景に近年、医療的ケア児は増加傾向にあり、同センターは地域の支えの必要性を訴えている。

冊子はA5判カラー、46頁。在宅で暮らす県内65歳以上の養、かん腸などの必要の医療的ケア児の7家族が登場し、吸引や経管栄養、かん腸などの必要の医療的ケアや医療機器、

家族の声 赤裸々に紹介

地域理解深める一助に

利用する訪問看護や訪問リハビリなどのサービスを紹介する。

昨秋の台風24号による大規模停電で医療機器の電源確保などに困った経験も「家族のおはなし」として紹介した。特別支援学校に通うわが子に付き添う母親は「私の人生は？社会から取り残されているのでは？」と不安な

気持ちになる」と打ち明けると、家族の率直な思いをつづっている。

在宅で保護者が担う医療的ケアは高度化も進んでいる。地域で医療的ケア児を支える動きは始まったばかりで、同センターの保健師山本卓磨さんは「助かる命は増えたが、その後のサポート態勢が追いついていない」と課題を挙げる。

副センター長の遠藤雄策医師によると、医療、福祉関係者でも医療的ケア児の生活の実態を知らない人は多いという。山本さんは「リアルな生活や声を届け、地域で暮らす医療的ケア児を知ってもらおうきっかけになれば」と願う。

冊子は同センターで無料配布している。問い合わせは同センターへ電話053(5500)8801へ。

(浜松総局・佐野由香利)

医療的ケア児の紹介や家族の暮らしを伝える冊子「2月、浜松市浜北区の市発達医療総合福祉センター」

